

大会レポート
第21回インターハイ
2008年3月22・23日

インターハイ 東海中高 完全制覇!

東海中高顧問
大野聡生

2007年度 第21回
全日本高等学校選手権大会
(静岡県富士宮市・村山日沢・村山口登山道)

OB6名が運営に携わる

今大会は、一昨年昨年に引き続き東海にとって成績面以外に特筆すべきことがある。それは東海OBの近藤友洋(東工大3年)・加藤峻一(中央大3年)・山下博徳(一橋大2年)・岡本将志(早稲田大1年)・戸田瑛(東北大1年)・前澤陽平(次年度早稲田大1年)がインターハイ実行委員として頑張っていたことである。3年前まで関東の高校OBが主となっていた実行委員会に、2年前に加藤と近藤が飛び込んでくれた。

「関東にヨソ者が乗り込んでいく」感を、払拭してくれたどころか、先輩が後輩を思う気持ちを、実行委員として活躍する姿でしかと伝えてくれた。



また、大会委員長古谷さんはじめ他校OBの皆さんにも生徒は多く声をかけてもらい励ましてもらった。学校の分け隔てなく、自らが通ってきた道の素晴らしさを後輩に伝えようとしている姿は感銘を受ける。改めて今大会の運営に対し感謝申し上げたい。

インカレの流れに乗る

地元名古屋大の23年ぶりのリレー優勝や、岡本・戸田先輩のミドルAファイナル進出&新人特別表彰など、IHの2週間前の先輩たちの活躍は大きな自信を与えてくれた。

授業後練習・自主トレ改革実る

昨年は伴や桜井は宇野兄弟にはまったく走力で歯が立たなかった。今年も野本選手をはじめ、抜群の走力を誇る



選手が大勢いた。一昨年来、通常の授業後練習(月水金)を、「公園・公園・河川敷」と割り振り、どれも往復6kmほどランニングしてきた。私は昨年は高3を担当、今年は久々の中学で校務多忙ということで、まったく練習の様子を見ることができなかった。しかし逆にそれが幸いしたのか、各自それぞれの自覚により、昨年IH後に立てた目標「週3回の授業後練習改革」を何とか自分たちだけでやり切れたように思える。

そして「大会自主参加制度」を導入した最初の年でもある。また、例年2月に行っていた主催大会も今年は見送ってIH直前強化合宿に切り替えたりと、特に最後の3ヶ月はしっかりIHに向けて調整できた。今後は効率的なトレーニングなども導入し、走力差を縮めることがカギになるであろう。

地図読み・コース予想

今回のトレインは、5月に「富士4days」大会で今回の表彰者の多くが走っていた。それを以って地図読みとコース予想を始めた。特に直前はリレーと個人のコース予想を繰り返し、多くの者が地図を頭に入れて走ることができた。出発当日に学校に集合し、最後

の歩測確認(二日間で違う縮尺に対応するため)をしたのも9年間で初だった。



団体戦前日 最後の「地図読み」



【団体】桐朋圧勝の下馬評覆す

一昨年の団体戦は、初めて東海が制覇した。それもA・B両チームが1・2フィニッシュ! しかし直後に、宇野駿介・町井瑞希両選手の武相高校入学の報を聞き、翌年は厳しい戦いになるで

あろうと、一年を通して団体戦については気持ちが引き締まっていた。

その昨年は武相 2 走の町井選手のケガと、東海 2 走の堀田の 35 分を切る最高の走りにより、「宇野兄弟」から逃げ切った。

今年は一年中「個人も団体も桐朋圧勝」の下馬評。伴と桜井が受験で遠ざかるため、駒不足の東海は低迷すると言われた。その逆境を覆した精神力は素直に褒め称えたい。

1 走のスタート。堀田が 35 分設定のコースを、全選手中ダントツの 30 分台で帰ってきた。その後 3 分で評判通りの走りで桐朋の福井選手。以下後続は続かずで、いきなり一騎打ちになった。続く 2 走山田が“予定通り”の「つなげる走り」を見せた。13 分もの差に少しは落ち着いた感の近藤がスタート。ビジュアルでも予定通りの時間に姿を見せ、そのまま 26 分差でゴールした。

【個人】高 1 近藤の堅実な走り

4 年前に山倉が完璧な準備により個人戦を制した。それ以来なかなかチャンスは訪れなかった。一昨年の個人戦では、宮地が宇野夏樹選手にわずかに「12 秒」差で負け。昨年はなんと宇野兄弟が「9 秒」差でワンツー。

富士の後半ダウンヒルコースで、最後は総力勝負の秒差の決戦になることは今年も予想されていた。

以下は昨年度書いた IH 記事より。

来年度は宇野駿介選手に小山選手に堀田が核となると予想される。そして受験生の伴・桜井。またそこに、今回中学生クラスでダントツの成績で優勝した野本選手(麻布中 3)が加わる。東海も走力にも自信のある近藤が高 1 になる。桐朋は団体戦出場チームでもわかるように、かなり層が厚い。来年度は個人戦も団体戦もかなり混戦すると今から予想される。

我ながら良いヨミだったと思う。

前日の宣言通りトップゴールを果たした 3 番目スタートの野本選手(麻布高 1 年)が、終盤のポストを飛ばすまさかのペナ……。次に好タイムでゴールしたのは、昨年「明日誰の首に金メダルがかかっているか楽しみにして、今年「第 21 回大会を制し、21 世紀のリーダー



になる」と豪語した小山選手(麻布高 2)。そのタイムに届くかと堀田のゴールを待ちわびたが、数十秒届かず。東海の応援勢としては、エースの敗退に意気消沈したところだった。中間ラジコンで好タイムが伝えられていた近藤が姿を現した。最後の声援に必死にゴールへ駆け込んだ。勝負レッグの 3-4 を着実に道回りしてミスを抑えトップタイムをたたき出した。事前の地図読みや自主トレーニングの成果がすべて出せた。感動・興奮の個人戦だった。

東海中高 入賞者のコメント

【高校団体選手権クラス】

- 1 東海 E A 堀田 山田 近藤 1:51:02
- 2 桐朋 E A 福井 細淵 山崎 2:17:51
- 3 麻布 E B 小山 尾崎 野本 2:20:24
- 東海 E B 桜井 田中 伴 2:22:32
- 4 武相 E A 湊 町井 境 2:26:40

M E R 第 1 位 東海高校 E A チーム

第 1 走 堀田遼 (2 年)

とにかく序盤に先行してトップで 2 走につなぐことだけを考えていました。

しかし、後ろにいる選手が気になって、ずっと焦っていました。そのおかげか、抜かれることなく 2 走につなぐことが出来て正直ほっとしています。

結果としては 3 人がそれぞれベストのレースをし、団体戦 3 連覇となりました。

それも全て 2、3 走のいい走りの結果だと思うので二人には本当に感謝したいと思います。

第 2 走 山田晋太郎 (1 年)

自分はインターハイの数ヶ月まえからミス率がぐんぐんと上昇し、20~30%を徘徊してとうとう「Mr. ミス率」の異名をとる程の実力になっていました。1 走の堀田先輩が期待通り 1 位で帰って来てくれたのですが、1 歩からやらかしてしまい、出鼻を挫かれた感じはありました。しかしそれにもくじけず、いつもどおり真面目にコツコツできるだけ慎重に走り、次につなげたつもりです。

先輩方の 2 連覇を 3 連覇へとつなぐことができ満足するとともに、来年は堀田先輩を安心させることができるようなチームにできるよう努力したいと思います。

第 3 走 近藤康満 (1 年)

1 走の堀田先輩が 2 位の選手に 3 分差をつけて帰って来てくれた上に、2 走の山田がその差を 10 分以上に広げてくれたので安心してスタートをきる事が出来ました。

レース中は、堀田先輩の話から序盤を抑え体力を後半に取っておこうと考えながら走りました。最後までミス無く落ち着いた走り、良い結果を残せてとても嬉しいです。

【高校個人選手権クラス】

- 1 近藤康満 東海 1 0:55:10
- 2 小山達之 麻布 2 0:56:08
- 3 町井瑞希 武相 2 0:56:50
- 4 堀田遼 東海 2 0:56:59
- 5 岩本拓巳 桐朋 2 0:58:19
- 6 桜井郁也 東海 3 0:59:59
- 7 細淵晃平 桐朋 2 1:00:06
- 8 中村将吾 桐朋 2 1:00:09
- 9 尾崎弘和 麻布 1 1:02:26
- 10 山崎純 桐朋 2 1:04:30



高校個人選手権 1 - 6 位 (右から)

ME 第1位 近藤康満 (東海高校2年)
 今回のレースでは、去年までとは違
 来年の枠に関わって来るので「大きなミ
 スをせず、10位以内に入る。」事を目標
 にしていました。

スタートで地図を見た時、3、4が勝負
 だと思いました。そのレッグで僕は道か
 らの迂回ルートを取りミスで最小限に抑
 える事ができたと思います。全体的に細
 かいミスはあったものの焦ることなく落
 ち着いて走る事ができました。また
 1:15000の縮尺にもしっかり対応でき、
 その結果が良いものになりました。

来年も今年の様な成績が収められるよ
 うに頑張っていきたいと思っています。

ME 第4位 堀田遼 (東海高校2年)
 個人戦の当日は朝から緊張している感
 じは無かったです。恐らく本当は緊張し
 た状態で、方角の感覚もおかしいまま
 スタートすることになってしまいました。

緊張もほぐれないままにスタートした
 ため、スタート直後からミスで連続、4位
 に終わりました。結局は精神的に弱かつ
 たということだと思います。この結果を
 受け止め、いつでも自分の実力を出せる
 ことを目指していきます。

ME 第6位 桜井郁也 (東海高校3年)
 前日の団体戦を走った感じでは6キロ
 最後までもたないだろうと予想してい
 たのですが、ダウンヒルのコースが自分
 に幸い最後まで思い通り走り切れまし
 た。今思うと危ないポイントもいくつか
 あり、特にスタート後1500分の1の感
 覚がつかみにくかったのも重なりか
 なり雑なアタックをしてしまいました。
 けれども、そのおかげでその後は細
 かいところも見る事で結果的にミス
 が少なかった事が入賞に繋がった
 のだと思います。高3なので今年で
 最後でしたが、出来れば来年度の
 東海地区枠は取りたいと思っていた
 ので、貢献出来て良かったです。

【併設団体中学クラス】

- 1 東海中 A 宮西 深田 鈴木 1:45:13
- 2 桐朋中 A 平木 二見 太田 2:05:09
- 3 桐朋中 D 西口 米田 伊藤 2:17:46

XU 第1位 東海中学Aチーム

第1走 宮西優太郎 (中学2年)

僕は1走だったので、いつも通りにア
 ップやストレッチができました。スター
 トの時に他の人に置いて行かれないよ
 うにしようと思っていました。前半は、
 ほとんど橋本君の近くを走ってしま
 した。しかし、後半になると体力が少
 なくなってきたと離されていきました。
 その後、ビジュアル通過時に「抜かせ
 ー！」と言われ、やる気が出て頑張り
 ました。ラスポからゴールまでは全速
 力で走ろうと思っていましたが、その
 前に体力を使ってしまったので、あま
 り速く走れませんでした。今回は、大
 きなミスもなくいけましたが、もう少
 ししっかりと地図を読んでいければ良
 かったと思います。

第2走 深田恒 (中学2年)

去年の雪辱を果たすべき団体戦。1走
 の宮西がビジュアルを5位通過し、接
 戦だと思いました。タッチ時には、3
 位に上がっていたので、攻めの気持
 ちを前面に出せました。宮西が1位
 で帰ってくるよりも気持ちが楽だ
 と思います。ラスポに向かう時、桐
 朋の二見さんとすれ違い、自分が
 後ろを走っていると思っていただけ
 に、興奮しました。もし森の中
 だったら、ミスったかもしれません。
 去年の悔しさを喜びに変えられ、う
 れしいです。

第3走 鈴木周 (中学3年)

自分個人としては60点の走りだ
 った。大会前にあまり走ってなかつ
 たこともあり、体力的にあまりス
 ピードを出せなかった。さらに、
 そのことにあせりを感じ、ビ
 ジュアル前は細かいミスで連続、
 ビジュアル後は整置ミスで2分近
 く(?)もロスしてしまつた。

それでも、一走の宮西がビ
 ジュアル後の思わぬ快走と、例
 のごとく深田の好タイムが効
 き、なんと優勝。自分でも意
 外な結果だった。

【併設中学個人クラス】

- 1 鈴木周 東海 3 0:48:28
- 2 深田恒 東海 2 0:49:54
- 3 平木達也 桐朋 3 0:51:58
- 4 太田晃久 桐朋 3 0:53:38
- 5 遠藤豪志 麻布 2 0:54:51
- 6 箱山昂汰 東海 2 0:57:23
- 7 西口遼 桐朋 3 0:57:29



中学個人 3位平木 2位深田 1位鈴木

- 8 伊藤陽介 桐朋 3 0:57:54
- 9 二見浩司 桐朋 3 0:57:55
- 10 橋本知明 東海 2 0:59:10

MJ 第1位 鈴木周 (中学3年)

前半が登りというのは意外と自分に
 向いているのかもしれない、と思
 ったレースだった。前半にのぼり
 が集中していると、多少鬱になる
 のだが、それよりも「ここで歩
 いたら負ける」という気持ちに
 押され、登りもほとんど走って
 しまうのだ。ただ、この走り方
 だと、ペース配分をまるっきり
 無視することになるので、今
 回は後半が下りばかりというこ
 とに助けられた。運がよかった
 というべきか。

MJ 第2位 深田恒 (中学2年)

昨日の感動的な勝利から一夜
 明け、個人戦。周りからは期待
 もされていたが、自分では、
 道走りなら勝てないと思
 ちあきらめていた。結局6ポ
 マでの登りは、ほとんど歩
 いていた。その後は、ダ
 ウンヒルだったので何とか
 走れた。自分では、入賞
 を期待できるほどのタイ
 ムではないと思っていた
 ので、2位という結果は
 とても驚いた。来年は、
 弱点である走力を克服
 して臨みたいと思っている。

一部写真提供 宮城島さん
 ih2007

http://sports.geocities.jp/ih2007_orienteeing/index.html

(大野聡生)